

2022 年度後期 ものの見方・考え方講座 齊藤日出治

2022 年度前期 ものの見方・考え方講座

テーマ 近代市民社会の政治と社会闘争の課題

- 第 1 講 はじめに 関西生コン弾圧と市民社会の暴力 5 月 10 日
第 2 講 近代市民社会の暴力と政治 6 月 8 日
第 3 講 関西生コンの弾圧と広義の市民社会 7 月 13 日
第 4 講 関西生コンの弾圧とレイシズム 8 月 10 日

2022 年度後期 ものの見方・考え方講座

テーマ 資本主義を超えて—21 世紀の世界認識

- 第 1 講 社会的連帯経済が切り開く未来社会構想 10 月 12 日

—津田直則『資本主義を超える経済体制と文明』を読む

- 第 2 講 日本の企業社会と性差別—近代市民社会と生権力 11 月 9 日

- 第 3 講 近代市民社会と時間 1 時間と自己—こととしての時間 12 月 14 日

- 第 4 講 近代市民社会と時間 2 「加速する社会」、「速度の政治」 1 月 11 日

第 4 講 速度社会の根源的危機—ポール・ヴィリリオの「速度の政治」 はじめに

- 1 時間と自己—自己は時間とともに成立する。

こととしての時間—あいだとしてのいまが過去と未来を生み出し、時間が成立する。その時間の成立において自己が成立する。

- 時間の不成立による自己の不成立—離人症、統合失調症、躁鬱症



2 共同的自己と共同的時間 → <共同的自己とともに成立する共同的時間>と<個体としての自己とともに成立する時間>

= 神の時間、宇宙の時間、客観的時間と自己を存立させる時間との矛盾・対立

→ 近代社会の時間のあり方=世界の時間と個人の人生時間との分離と両者の関係の逆転

世界の時間のなかの個人の人生(先近代) → 個人の人生の時間のなかへの世界の時間の包摂=近代

個人の生の時間のなかに世界の時間を濃縮して詰め込む → 加速(ヘルトムート・ローザ)

個人の心理・意識であると同時に、そこに社会的なちからが作用する

=生権力、速度の政治 → 自己を成立させる時間のなかに作用する権力と政治

一 速度という時間の檻

『黄昏の夜明け』 聞き手シルヴェール・ロトランジェ、土屋進訳、新評論

1 時間と建築—ヴィリリオは速度の概念にどのようにして接近したのか？

処女作『バンカー考古学』1975年 トーチカ=小要塞—分厚いトーチカの内部に宿る暴力(海南島のトーチカ) → 暴力の考古学—閉所恐怖症 → 空間バンカーから時間バンカーへの変化 11頁



時間に対する戦いの場としての建築

建築設計—均衡と安定ではなく、「不均衡と揺らぎに基礎を置いた建築」「ななめ空間機能」
住居の建設 16頁 *fonction oblique*

=「その居住者に動きを生み出すよう、さまざまな角度のカーブや傾斜路や傾斜面などの障害物を意図的に備えたものでなければならない」16頁

バンカーに対抗する戦争の戦術形態

加速する時間を生活者が自らの住まう家屋において体験するような建築構造を考える。

居住者の動きを生み出すような建築 → 新しい社会の創造

=「時間と自己」(木村敏)との関係の意識化

2 空間バンカー批判から速度の政治経済学へ—身体の見

「私は突然自分が時間の中に立っていることに気づいた」— 68年5月は「時間・空間的な出来事」65頁

「静止状態だけが居住可能という神話が崩れた」70頁

時間・速度との関係において都市革命への関心—都市がもつさまざまな速度—国土開発、地域開発と時間の次元を結びつける=速度学 *dolomologie*

ヴィリリオの造語、ギリシャ語でレースや速度を著すドロモスから来ている 78頁

cf. H・ルフェーヴルの都市革命への関心は空間の生産 → 「リズム分析」

「一つの急斜面、正確に言うなら、いくつもの地滑りを起こしている急斜面上にいるか、あるいは下りのエスカレーターに乗っているような気持ちになっている」『加速する社会』22頁
後期近代の時間感覚についての H・ローザ



速度と身体の関係 → 「速度の政治経済学」 81頁

富の政治経済学=重農主義—医師としての身体生理学と感覚から経済現象を考察する
→ 生命循環としてのエコノミー、物質代謝としてのエコノミー



速度の政治経済学—ロボット、仮想現実の考察 → 身体感覚を置き去りにする

身体の身ぶりとは不可分な時間と速度が、身体から分離し身体を置き去りにしてエコノミー

の世界を創造する。

速度は「ダンスの振付け」＝「時間と空間を構成する身体の動き」 98 頁

「ダンスは身体を組織化する統御機能があります。ロボットや車のおかげで、そういった身体の統御機能を工業革命の過程で忘れてしまったのです。」

「身体は、・・・空間を時間の中に折りたたんでいくということですね」ロトランジェ 98 頁
→ 「ダンスは劇と同じく時間の芸術なのです」 99 頁

3 時間バンカーの出現

1) 仮想空間による現実空間の支配

現実空間—夢、絵画、音楽—身体が生産する空間

仮想空間—遠隔行動、遠隔性行為、遠隔外科手術、遠隔触覚、遠隔□＝「あらゆる感覚が距離の隔たりを超えて伝わります」 99 頁

— 2つの空間は相互依存している

↓

仮想現実において空間が急速に圧縮されていく

フランスから中国までの距離—6 か月→6 時間→2 秒

距離の時間と空間は、速度に応じてかつては自己の身体のなかに書きこまれていた。

パリ、フランスの空間の内面化

↓

空間の圧縮は、実物世界の圧縮をもたらす。「実物身体が速度を通して圧縮されると、空間は時間の中に消滅する」ロトランジェ → マルクス「時間による空間の圧縮」

＝距離の汚染＝「灰色のエコロジー」 116 頁

我々は、身体が空間のなかに閉じ込められていたように、いまや仮想現実がつくる時間バンカーのなかに閉じ込められている。

「時間の中での身体、そして時間—空間の中での身体があまりにも過度に圧縮されているために、人は根本的な閉所恐怖症を感じざるをえないのです」 117 頁

バンカーへの立ち戻り—「世界は、そして地球は要塞になり、閉鎖された家になり、監禁されつつある」 130 頁

↓

木村敏によれば、自己の自己としての生成と時間の生成は同時であった。ところが、この事故を生成させる時間には、たえず速度を高めるという固有の社会的ちからが作用する。自己はその社会的ちからに突き動かされて、速度の時間を生きるようになる。自己は精神のバランスを崩して統合失調症などの精神病理に陥るだけでなく、速度の時間を生きることによって社会的な精神病理に陥る。ヴィリリオはその精神病理現象を時間バンカーという言葉で語ろうとする。

二 速度体制の革命と速度制社会

『速度と政治』1977年

1 近代西洋文明における富としての速度

イギリスの経済的優位と産業革命

「富の本性の変化が明らかにするのは、ただ、世界経済の速度の変化、動産的単位から時間的単位への移行、時間戦争への移行のみである」。73頁

イギリスの注力—「輸送領域における技術革新」＝「高速機械の製造」

→ 「事実上、「産業革命」ではなく、「速度体制の革命」が、民主主義ではなく速度体制が、戦略ではなく速度術が存在したのだ」73頁

「西欧の人間が到底多いとは言えない人口にもかかわらず優越性をもち支配的であるように見えたのは、[西欧が他の諸世界に対して—引用者]より速い者として現れたからである」74頁

「速度は西欧の希望である。速度が軍隊の士気を支え、輸送が戦争を扱いやすくする。「あらゆる土地を突き進む装甲車が障害物を一掃する。装甲車によって、大地はもはや存在しないも同然となるのだ」88頁

2 速度と戦争＝「時間戦争」

戦争は、場所の領有から速度の高速化による空間の「地理的短縮」の問題へと転換する。

「速度の非-場所性のもつ戦略的価値が場所の価値に取って代わり、時の取得問題が領土の所有問題の性格を一変してしまった」192頁

「今日、速度が戦争なのだ」199頁

戦争は速度を生産する工場となる。

「「攻撃力」の信頼性を維持するため、絶えず、ミサイルの性能を完璧なものにすることが要請される」「性能とは言い換えるなら、地理的空間を無に帰す、あるいは無きに等しくする能力である」196頁＝「非場所性を維持すること」197頁

核爆弾による「空間戦争」からロケットエンジンによる「時間戦争」へ

「今日、速度が戦争なのだ。最後の戦争なのだ。」199頁

「戦争の能力とは運動の能力である」

ベンジャミン・ウチヤマ『日本のカーニバル戦争』みすず書房—大衆は総力戦をスピードにおいて体験する、従軍記者による上海から南京への「進軍」のスピードの強調 → 中国の地理、中国人兵士、中国人女性の抽象化

『速度の政治』速さという突撃の興奮＝身体-速度の陶酔 171頁 → スポーツから戦争へ → 日本の神風特攻隊はこの表現

3 速度体制全体主義

「ファシズムが全体主義であったのは、徹頭徹尾速度体制であろうとしたからだ」170頁

速度体制によって「ヨーロッパの地理の消滅」が生じて、「速度のヒエラルキーによって完全に機能的に規定される『社会的』有機体の膨張力」がみなぎることになる。170 頁

↓

「突撃」という社会的心理の生産—スピードの興奮において結ばれるスポーツと車と軍事

「速さや距離の記録がもたらす興奮は突撃の興奮であり、・・・軍事的突撃の演劇化にほかならない」170 頁

三 時間爆弾としての情報化爆弾

『情報化爆弾』 丸岡隆弘訳、産業図書

La bombe inforimatique, Paul Virilio, Editions Galilee, 1998

1 まなざしのグローバリゼーション

電気通信技術によって「瞬時的にコミュニケーションが可能となり」「電気通信技術によって結ばれた遠隔的大陸がうまれつつある」12 頁＝「世界時間的同时性」の実現

「ヴァーチャル・リアリティーでできた遠隔的大陸同士がたがいに密接に結びつく」12 頁

↓

速度革命がもたらしたもの

「たぶんわれわれは今まで、社会を考察する際に、富とその蓄積の他に、速度とその集中という要素があることを忘れていた。実際、加速手段が特定集団に集中するということがなかったらさまざまな政治権力による中央集権体制など歴史の中で発生もしなかったであろう」15 頁 → 「速度体制の革命」「速度制社会」➡ 「速度体制的権力」「速度体制国家」

↓

大都市と国家における「輸送や通信の加速化」15 頁

→ 電気通信網による都市のサイバネティック的コントロール・システムの構築、テレビによる監視装置

→ 世界時間の出現、「時政学的な同時性の出現」17 頁

グローバリゼーションとは、移動や伝達の《所要時間の削減》による地理的距離の極度の縮小

+

遠隔監視の一般化＝世界全般の《視覚化》＝世界の《ヴァーチャル化》19 頁

＝世界を一望に治めて監視し管理する → テレビの役割

1 「瞬間的情報伝達によって全世界的同時性を実現して世界時間を作り出すこと」20 頁

2 われわれをとりまく現実世界の光景の代わりになるヴァーチャルな光景＝映像を《うみだす》こと、20 頁

実際の現実 + ステレオ的現実＝ヴァーチャルな現実 20 頁

c f M・マクルーハンのグローバル・ヴィレッジ論—身体の拡張としてのメディア

2 尺度認識障害症

近代的人間—未成熟と幼児性

ネットワークは電子パルスの絶対速度を活用して、時間がすこしずつしか与えてくれないものを瞬時にすべて与えることを可能にする 125 頁

ネットワークは「現実世界の地理的大きさをとるに足らぬものに縮小してしまう」125 頁
電気通信の同時性は、いますぐ着いてしまうために、未来が存在しないかのようにみえる＝「瞬間の君臨」

125 頁 瞬時にすべてが実現するために距離感覚を失う。

これからは“ここ”という具体的な場所はもう存在せず、すべてが“いま”となる 150 頁

グローバリゼーションは、経済だけでなく、エコロジー＝環境にかかわる環境とは、自然環境であると同時に、「具体的な経験の世界を構成する《空間的距離》や時間的長さ」のこと、その空間と時間が汚染され、電気通信技術による加速の動きのなかに人間が監禁される 151 頁

未来の消失 = 「未来のない世界—これは八〇年代の日本のオタク族が閉じこもろうとする永遠の子ども時代の世界である」125 頁

かれらは「存在へとめざめることを拒否している」

未来はさまざまな危険をひそめたものである。そして青少年はそうした潜在的危険性のひとつと考えられている。 → 青年層は慎重に実務から遠ざけられ、いつまでも親に依存した状態におかれる。

子供は無邪気ではなく、大人にとって潜在的に危険 → フロイトは変質者のことを「精神的幼児性」「大きな子供」とよんだ

↓

科学技術は必然的にひとりでに進歩する。そして人類は未来を失ったままその場に取り残され、永遠に小児のようにふるまい続ける 131 頁

3 情報革命が抱える爆弾—技術革新がもたらす悲劇

1) 情報通信ネットワークの瞬時の破綻—システムック・リスク

インターネットネットはかぎりなき進歩をもたらすが、しかしそれはまた破局をもたらす。「ヴァーチャルな航海をおこなうこのタイタニック号がいつの日か氷山にぶつかることは避けがたい」139 頁

「もし金融市場のサイバネティックスが本当にグローバル化されていたとしたら、一九九七年秋の株暴落は即座に地球全体にひろがり、全地球的経済危機をもたらしていただろう」140 頁＝2008 年のリーマン・ショックの予告

2008 年の世界金融危機は、ヴィリリオの予言通り、グローバル化されたサイバネティッ

クな金融市場のために全地球的経済危機をもたらした

2) 瞬時の情報伝達が引き起こす情報歪曲の世界的同時性

情報化爆弾＝「電気通信技術によってリアル・タイムで」世界中に情報が伝達できるようになった。しかしこの情報革命は同時にシステムティックな密告の革命でもある。「それは噂とか疑惑などのパニックめいた現象を誘発」する。140 頁

「現実の情報革命が同時にヴァーチャルな情報歪曲の革命でもある」141 頁

「人類が集団的に目が見えなくなるという恐るべき脅威」147 頁

↓

みんなが熟慮することがない条件反射的民主主義はスペクタクル的になり、個人の行動を調教するようになる。142 頁

ウェブとオンラインのサービスは、「極めて広範に世論を変化させるための試み」であった。143 頁

二重の情報化爆弾 = システムック・リスク + 事実の破綻＝「人類が集団的に目が見えなくなるという恐るべき脅威」147 頁

グローバルな規模での「関東大震災」の発生

ウクライナ戦争を契機とした「ハイブリッド戦争」(軍事の情報空間への侵入)の動き

四 遺伝子爆弾

1 〈世界に住まう自己〉から〈技術によって住まわれる自己〉へ—携帯自己 portable self

ひとは居住者として世界に住まうのではなく、遺伝子工学による身体への移植革命を通して、技術によって住まわれるものとなる。ひとの身体は技術を身にまとう＝「移植や生態人工器官や電極などで自分自身の体を整備する」＝「自分に埋め込まれる」

＝「移植革命は技術による身体の植民地化」123 頁

「居住者自身が、技術が居住(生息)する環境になってしまった」123 頁

2 速度革命と身体の工業化＝植民地化

3つの速度革命

1 輸送革命 19—20 世紀 「移動と加速を超音速化する革命」139 頁

2 伝送情報革命 身体装置型コンピューター「人工頭脳学的革命」cybernetics139 頁

3 移植革命 「ある種の技術によって身体内部に情報伝達技術を導入する」139 頁

「生きている生体組織の情報プログラムを解読する革命」140 頁

→ 優生思想—移植革命への欲望を生み出すもの—アウシュヴィッツの人体実験＝「優生主義ファシズム」140 頁

「身体の内部植民地化」—植民地化された人々の身体を変えようとする試み

「野蛮人」を文明化するという領土植民地における身体訓練の延長線上にあるもの

「新しいタイプの人間を作りだすこと」を目的とした「全体主義のユートピアのようなもの」
143 頁

五 科学の事故

科学技術が発展する過程は、同時に爆弾を製造していく過程＝科学は重大事故を発明した
3つの爆弾＝原子爆弾、情報爆弾、遺伝子爆弾 194 頁

原子爆弾―「生命活動を消滅させ、環境を汚染し、放射能の毒を撒き散らす・・・狂気の沙汰」
194 頁

第2第3の狂気の沙汰＝「電腦爆弾」「情報爆弾」「遺伝子爆弾」

科学技術＝知識は「想像もできない新しい破局と事故をプログラムしている」 210 頁

「三つの爆弾がいまくみ上げているもの、それが科学の事故」 210 頁

科学は事故を起こす、その意図するものを実現するだけでなく、その過程で意図せざる破局を引き起こす。原子力発電の炉心溶融事故、地球の温暖化、遺伝子組み換え操作の弊害、
「アウシュヴィッツやショアーは「政治的な事故」→ その「二〇世紀の政治事故に続いて
今、情報爆弾と遺伝子爆弾がともに爛熟し、言い換えれば手をたずさえて、想像もつかない
科学的な大破局を生み出そうとしている」

全面事故 219 頁

戦争は、クラウゼヴィッツのいうような政治の延長線上にあるのではなく、事故、全面的な事
故になった。「事故は戦争の新しい形だ」 220 頁

→ フロイトの生の欲動にはらまれる死の欲動

参考文献

ポール・ヴィリリオ著作

1 『速度と政治』市田良彦訳、

Vitesse et Politique, Edition Galilee, 1977

2 『ネガティブ・ホライズン―速度と知覚の変容』丸岡高弘訳、産業図書

L'horizon negative, Editions Galilee, 1984

3 『情報化爆弾』丸岡隆弘訳、産業図書

La bombe informatique, Paul Virilio, Editions Galilee, 1998

4 『黄昏の夜明け』聞き手シルヴェール・ロトランジェ、土屋進訳、新評論

Paul Virilio, Sylvère Lotringer, Crepuscular Dawn, Semiotexte, 2002

5 『アクシデント 事故と文明』小林正巳訳、青土社

L'accident originel, Galilee, 2005

『加速する社会』ハルトムート・ローザ

出口剛司監訳、福村出版

Beshleunigung — Die Veränderung der Zeitstrukturen in der Moderne, Hartmut Rosa, Suhrkamp Verlag Frankfurt, 2005

速度の檻からいかにして脱出するのか—世界危機の根源にあるもの—

大阪労働学校・アソシエ 齊藤日出治

速度の政治に閉じ込められるわたしたち

資本主義はそのシステムに固有の時間を生産する。たえず速度を高めようとする衝動がそれである。つねに時間が足りない、もっと時間がほしい、とわれわれは急き立てられる。ひとに遅れまいとするあせり、取り残されるといふ不安がビデオを倍速で観る若者のタイプ欲求を呼び起こす。

この時間意識は資本主義システムに固有な脅迫観念であり社会病理現象である。資本とは、物ではなく、より多くの価値を増やす運動である。手持ちのマネーを、あるいは借り入れたマネーを流通に投げ入れ、より多くのマネーを手元にとりもどす運動である。この運動する時間が短いほどより多くの利益を手にすることができる。マルクスは流通時間をゼロにしようとする資本の衝動のうちに資本という運動の本性を読み取っている。産業革命以来の輸送・交通手段の巨大な技術革新は、流通時間を圧縮して、空間を消滅させようとする動きを加速させてきた。

さらに、二〇世紀に生じた情報通信革命は、地球のあらゆる地点を情報ネットワークによって瞬時に結びつけるグローバルなサイバー空間を創出した。わたしたちは、みずからの身体が<ここ>という具体的な場所に向き合って世界を創造する能力をしだいに衰弱させ、サイバー空間の網の目に絡みとられた格子のような存在となる。日常生活におけるひとりひとりの欲求は、GAFAMのような巨大情報資本のネットワークに吸い上げられ、ビッグデータによって解析され、操作され、かたちづくられるようになる。

加速する知識と情報のネットワークは、さらにひとの身体の内部に侵入する。遺伝子工学、分子生物学の発展によってひとの身体は遺伝情報のネットワーク・システムと化し、このシステムの操作によって監視され、管理され、改造されるようになる。身体は技術が住まう環境と化し、技術によって植民地化される。

ポール・ヴィリリオ『黄昏の夜明け』(二〇〇二年)が洞察したように、資本主義とは「速度体制」であり加速のシステムであり、そこでは速度が富となる。個人間・企業間・地域間・国家間の競争をせきたてるのもこの速度の政治である。

時間の事故と近代文明の破局

地球上の地理的空間を移動する時間がかぎりなく短縮され、地球空間が情報通信ネットワークによって一つに結ばれる。さらに、ひとや動植物の生命体が遺伝子情報によって操作可能になる。この近代文明がもたらした科学技術の進歩は、近代の加速のシステムが招来

した巨大な富の源泉である。だが、ほかならぬこの富は、世界を瞬時に消滅させる破局的な暴力性をそのうちに秘めることになる。科学技術は、ローカルな自然災害や局地的戦争や個人・集団間の暴力を超えて、地球的規模の複合的で広域的な暴力を発動する。

交通運輸手段の巨事故(マンモスタンカーの沈没、大型飛行機の墜落、列車の転覆、自動車事故など)、原子力発電の炉心溶融事故、情報通信ネットワークのシステム障害による世界的規模の電話・通信網の中断、金融派生商品の債務返済不能がひきおこす世界的金融危機、核抑止の国際政治がたえず引き起こす核戦争のリスク、化石燃料の大量採掘と大量浪費がもたらす人新世時代の地球環境危機、そして人工的に作成されたウィルスのグローバルなまん延(オミクロン株も人工ウィルスの疑いがある)、がそれである。資本の加速のシステムは、少数の富裕層や巨大企業に巨万の富をもたらすと同時に、地球と人類を瞬時に破壊するリスクをかぎりなく高めていく。速度の富が破局的な過酷事故を発明するのだ。

大規模災害や過酷事故やクーデタや感染症の非常時を利用して社会を白紙状態に還元し市場原理にもとづく仕組みを瞬時に導入するショック・ドクトリンも、資本が発動する速度の政治に起因している。

速度の政治は戦争のリスクをもかぎりなく高める。サイバー空間が国民の世論を誘導し情動を組織して戦争へとめり込む動きが高まっている。軍事と非軍事の境界があいまいとなる「ハイブリッド戦争」によって、サイバー空間に軍事が介入し、この介入が局地戦争を世界戦争へといざなう事態にわたしたちは直面している。

時間と空間への権利を創造する

二〇〇八年の世界金融危機、二〇一一年の福島原発事故、二〇一九年から続く感染症の世界的まん延、二〇二二年のウクライナ戦争の世界核戦争への転換の予兆は、速度の檻に閉じ込められた近代世界が地球と人類の消滅へと至る未来のシナリオを描出している。

時間は、わたしたちの身体や社会システムの外部にある客観的なものさしではなく、わたしたちの身ぶりや自己の存在や社会のありようとともにつくりあげられるものである。ひとびとを分断して競争にかりたてる社会を突き動かしている速度の政治と決別し、わたしたちが身体の身ぶりのなかに時間のリズムをとりもどすこと、そのためには、わたしたちが資本のくびきを脱して、富と時間を共同で組織する道へと歩みだすことが求められている。地域の自治組織、協同組合運動、連帯と協働にもとづく社会組織を多様なかたちで創造することによって、時間と空間への権利を共同の合意とすること、わたしたちの未来はそこにしかない。